

A-20 脳卒中死亡率の低い三陸沿岸漁村Kの栄養調査成績

東北大教育 佐藤 徳子

1. 東北大医学部衛生学教室では長年にわたり、東北地方に多い脳卒中死亡率の原因を住民の栄養学的生活条件による差異という観点より比較研究し多くの貴重な成果をあげている。昭和39年及び40年には比較的脳卒中死亡率の低い三陸沿岸部の沿海部落漁村Kを調査したが、我々はその中F及びNの二部落について栄養調査を行ったのでその結果を報告する。

2. 対象は宮城県北部の三陸沿岸漁村Kの互に隣接するF及びNの2部落、夫々約20世帯で、国民栄養調査方

法に従い、一年四季、夫々3日間連続の食物摂取状況を調査した。調査結果は、金田等の宮城県内陸農村の比較的脳卒中死亡率の高いH村の一部落及び国民栄養調査成績と比較検討した。又F及びN部落の自家製みそについてその食塩濃度を分析し、一方総合検診による村民の健康状態と照らし合せ検討した。

3. 栄養摂取量では蛋白質、カルシウム及び鉄等はH農村及び全国生産者世帯を上廻るが、ビタミンB群の摂取量は不足している。このことは魚及び海藻等の摂取量は比較的多いのに反し、いも類、野菜類の摂取量が少ないことと一致している。身長、体重及び皮厚等による村民の体位は農村Hよりやや優れ、一方血清コレステロールは反対にやや高値を示しているが、昭和33~37年の45~64才の人口1万対脳卒中死亡率は農村Hの41.4に対し漁村Kは14.0と低い値を示している。